



## レーザー学会研究委員会というところ

米田 仁紀<sup>†</sup>

### Research Group Committee of the Laser Society of Japan

Hitoki YONEDA<sup>†</sup>

「第223回研究委員会」。これは、昨年11月に行われた、研究委員会の名称である。このときの委員会では、今後開催される第468回～474回研究会の開催案内や講演募集などが議題となった。研究会は一年に15回程度開催され、それぞれ1～2日の日程で10件程度の講演が行われる。つまり、レーザーに関する研究会が1か月に1つ以上、150程度話題をもって日本全国で行われている。

このように、レーザー学会は実にアクティブな研究会システムをもっている。もちろん、これらは黒澤前委員長を始め、多くの方々が作り上げてきたシステムである。学会規模からいって、これは誇るべき大事な活動部分であり、研究委員会委員長として身が引き締まる思いである。

学会の委員会では、それまで築き上げてきた活動を継続・発展させるのと同時に、そのシステムや学会のコミュニティ母体を利用して、新たな活動を考えていくことが発展の鍵となる。ただし、最近の動向で言えば、どこの学会に行っても賛助会員数の低下、協賛金の減少、学会員数の低下などが嘆かれ、学会運営自体が財政的に厳しくなっている。これは、日本では、研究者は多数の学会に所属して複数の学会のアクティビティを支えているため、1つの学会への寄与が限られてくるということも理由のひとつと考えられる。また、キャリアや所属機関の評価のためには、よりインパクトファクタの高い雑誌へ研究成果を投稿することがよしとされる傾向が強くなり、そのため和文誌の重要性が低下していく。

レーザー学会では、財政的な面は議論されているものの、その他の部分では、比較的よい状態を保っているように思える。この研究委員会でも、14の技術専門委員会がそれぞれ10～30人の委員を抱えて活動している。また、研究会においては数十ページにおよぶ研究会報告書が作成されている。研究委員会の委員になると、賞選考の関係もあって、これらの研究会報告書がすべて学会から郵送されてくる。これを非常に“おいしい”と感じているのは、私だけではないだろう。何しろ、最終成果がでる前の原石に近い話まで読むことができる。

これらはまさにレーザー学会の会員が生み出し続けている大きな資産である。それをいかに活用できるのかという可能性について、現在、研究委員会では、少しずつパイロット的に議論を開始している。たとえば、テーマに興味があるが研究会に参加するのは難しいとか研究会に参加したことがないので雰囲気がわからないなどという会員に対して、Facebookを利用してソフトなリアルタイムに近い情報発信を試みようとしている。また、紙ベースの研究会資料をweb閲覧・検索システムに入れ、どこでもキーワード検索して読めるシステムも試作し始めた。これらは、まだ一般会員への公開には至っていないが、委員会内で使用することで問題点を洗い出してその価値を再認識し、最終的には会員へのサービスまで拡大していきたいと考えている。

さて、このような取り組みをはじめると、いつもながら共通に出てくる問題に出くわす。それは、会員/非会員の差別化や、報告書の販売への影響、著作権、コストの問題などである。これらに対しても、研究会委員が様々な立場や見方から意見を出し、解決策を探っている。最終的にどうなるかはいまだ模索中であるが、このような議論が進み、“ある程度限定された条件での公開ならばいけるのでは”，と考えている。もちろん、詳細情報の手前までは一般公開して、レーザー学会ならではのアピールをすることも忘れてはいない。

さて、この研究会、専門委員会を体験されていない会員の方は、ぜひ一度、リアル・バーチャルのどちらかでのぞいてみてはいかがでしょう。そして、さらには、ご自分で技術専門委員会を立ち上げ、委員になってみては。

<sup>†</sup> 電気通信大学 レーザー新世代研究センター (〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1)

<sup>†</sup> Institute for Laser Science, University of Electro-Communications, 1-5-1 Chofugaoka, Chofushi, Tokyo 182-8585